

令和8年度 お金の^{でどころ}出所と使い道 (栗原市予算概要)



2025 栗原市民まつり「くりはら絆まつり」展示写真（くりでん乗車会）

はじめに

市民の皆さま、こんにちは。

昨年5月に栗原市長として2期目がスタートし、新たな年度を迎えました。令和8年度は、第2次栗原市総合計画の最終年度であり、計画に掲げた各種施策の総仕上げの年となります。市民の皆さまからの負託にお応えするため、「笑顔が生まれるまち くりはら」の実現と、本市が目指す



「市民が創る くらしたい栗原」の実現に向け、これまでの取り組みをさらに推進してまいります。

現在、物価高騰の影響が長期化し、市民生活に大きな影響を及ぼしており、引き続き、きめ細かな支援策を講じていく必要があります。また、全国的にクマの出没が増加し、市内においても人身被害が発生するなど、不安が広がっている状況であります。こうした中、令和8年度は、子育て世帯の経済的負担を支援する施策として、18歳までの医療費無償化や、市立学校における「学校給食費無償化事業」、出生祝金等を支給する「すこやか子育て支援金給付事業」、「保育料2人目以降無料化事業」などを引き続き実施してまいります。

また、安全・安心なまちづくりを推進するため、防犯カメラや防犯フィルムなどの防犯対策用品の購入・設置費用の一部を補助する事業を新たに実施いたします。

さらに、野生鳥獣による被害防止対策として、クマを誘引する樹木の伐採を引き続き実施するとともに、緊急銃猟に対応できる鳥獣被害対策実施隊員の育成を図るため、新たに射撃練習の経費への補助を実施いたします。

市民の皆さまには、本書を通じて市の予算や事業内容をより身近に感じていただき、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年4月

栗原市長

佐藤 智

～ 目 次 ～

今年度の主な取り組み	1
資料の見方	3
1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」	
(1) 美しい景観を守り、豊かな自然と共生した 多様な暮らしを満喫できる生活環境を形成します	4
(2) 豊かな心と文化を育み、生涯を通じて学べるまちづくりを目指します	6
(3) 安全・安心なまちづくりを推進します	6
2 「子どもたちの豊かな感性と生きる力を育むまち」	
(1) 結婚・出産・子育てが安心してできる環境を目指します	8
(2) 次代を担うたくましい子どもを育成します	10
(3) 人とつながり、支え合い、互いに高め合う 子どもを育てる環境を目指します	11
3 「健康や生活に不安がなく、優しさと思いやりに満ちたまち」	
(1) 誰もが健康で安心して暮らせる環境をつくります	12
(2) 高齢者が生きがいを持ち、互いに支え合うまちを目指します	13
(3) 市民が安心して暮らせるための地域医療を守ります	13
4 「地域の特性を生かした、産業や交流が盛んなまち」	
(1) 持続可能な農林業の育成と栗原ブランドの確立に取り組みます	14
(2) 産業育成と企業誘致による産業拠点を形成します	16
(3) 地域資源を生かした広域観光戦略を構築し、栗原市を発信します	17
5 「市民がまちづくりを楽しめるまち」	
(1) 小さなコミュニティを大切にした地域づくりを推進します	18
(2) 市民が自ら行うまちづくり活動を支援します	18
(3) 市民満足度を重視した効率的な行政サービスを行います	19
6 重点「放射能対策プロジェクト」	
放射性物質による不安を解消し、安心して暮らせるまち	20
7 特別会計・事業会計予算の主な事業	21
予算の概要と市政の基本的な目標	23
令和8年度栗原市各種会計 予算総括表	23
一般会計歳入・歳出の状況	24
市民1人当たりの予算	28
財政状況の推移	29
財政運営の取り組み	35

今年度の主な取り組み



7億
8,156
万円

学校のICT環境を整備 (学校ICT推進事業)

1人1台タブレット端末を使用し、学習内容をより深く理解できる「分かる授業」を行い、「確かな学力」の育成を図るため、学校のICT環境を整備します。

(担当: 学校教育課)



363
万円

新たな通園制度で子どもの育ちを応援 (乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度))

子どもの育ちと子育て家庭を支援するため、保育所等に通っていない生後6か月から満3歳未満の子どもを対象に、毎月一定時間の範囲内で利用できる保育サービスを実施します。

(担当: 子育て支援課)



178
万円

子どもたちの屋内の遊び場を整備 (キッズランド整備事業)

子どもの健全な育成と安心して子育てができる環境の充実を図るため、天候等に関わらず子どもたちが楽しく遊び、子育て世代が交流できる施設の整備に向けた基本計画を策定します。

(担当: 子育て支援課)



200
万円

防犯対策用品の購入設置経費を助成 (防犯対策用品購入設置助成事業)

一般家庭における防犯対策を強化し、被害の未然防止を図るため、防犯用品の購入・設置に要する経費の一部を助成します。(1世帯1回限り)

・補助額: 購入設置経費の1/2(上限2万円)

(担当: 危機対策課)



2億円

クマを誘引する樹木を伐採
(誘引木伐採事業)

人の生活圏へのクマの出没を防ぐため、クマを誘引する樹木(栗)を伐採し、市民の安全安心を確保します。
(担当: 林業畜産課)



200万円

射撃練習の経費を補助
(射撃練習支援事業)

鳥獣被害対策実施隊員が行う射撃練習の経費を補助し、クマ等の捕獲に対応可能な実施隊員の体制整備を推進します。
・補助額: 練習1回あたり上限1万円(年2回まで)
(担当: 林業畜産課)



350万円

市内で新規創業・拠点開設する方を支援
(クリエイティブ産業支援事業)

今後の成長が期待されるクリエイティブ産業の振興を図るため、情報通信業またはデザイン業に該当し、市内で新規創業、新規拠点開設を行う事業者に対し、設備等取得費や通信回線使用料等を補助します。
(担当: 産業戦略課)



200万円

地域のにぎわいを創出する取組を支援
(にぎわい創出支援事業)

地域のにぎわいを創出する取り組みを毎年度継続して実施していけるよう、立上げとなる初回の事業費の一部を補助します。
・補助額: 事業費の1/2以内(上限10万円)
(担当: 市民協働課)

資料の見方

令和8年度予算の事業費です。

=新規事業 =拡充事業

市民生活安定のための道路整備事業

660万円
(担当：建設課)

小学校や中学校へ通学する児童生徒の安全確保と、検討が進められているくりこま高原駅周辺まちづくり計画エリアの外周道路となる市道の整備を行い、道路機能の強化を図ります。

《志波姫》市道白山線道路整備事業



市道白山線

◎持続可能な開発目標 (SDGs) との関係

平成27年(2015年)9月に国際連合で採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) は、令和12年(2030年)を目標年とし、「誰一人取り残さない」持続可能な世界の実現に向け、貧困の撲滅や教育の充実、働きがいと経済成長の両立、気候変動への対策、陸や海の豊かさを守るといった17のゴール(目標)とそれを実現するための169のターゲット(具体目標)から構成される「世界共通の目標」です。

第2次栗原市総合計画に掲げる市政運営の基本理念「市民が創る くらしたい栗原」は、SDGsの考え方と合致していることから、後期基本計画にSDGsの多様な目標を採り入れるとともに、本市が抱える諸課題を解決するため、SDGsの取り組みを市民と共に推進します。

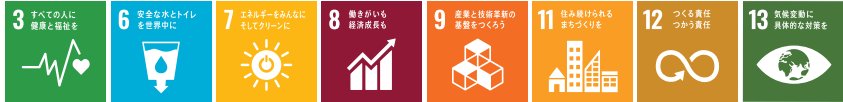
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(1) 美しい景観を守り、豊かな自然と共生した多様な暮らしを満喫できる

生活環境を形成します



新 市民生活安定のための道路整備事業

660万円

(担当：建設課)

小学校や中学校へ通学する児童生徒の安全確保と、検討が進められているくりこま高原駅周辺まちづくり計画エリアの外周道路となる市道の整備を行い、道路機能の強化を図ります。

《志波姫》市道白山線道路整備事業



市道白山線

一般廃棄物処理施設建設候補地選定事業

1,417万円

(担当：環境課)

埋立残余年数が迫る最終処分場及び老朽化が進むクリーンセンターについて、新施設整備に向けた建設候補地の順位付けを行い、事業化に向けた検討・判断の材料を整理することで、新施設整備を計画的に進め、安定的な廃棄物処理体制の確保と市民の生活環境の保全を図ります。

電気自動車購入支援事業

100万円

(担当：環境課)

市民又は事業者が電気自動車(プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車を含む)を購入する際の費用について、補助金を交付し電気自動車等の購入促進を図ります。

〔助成の内容〕

電気自動車の購入に要する額

1台当たり10万円

財源 県の負担額 100万円

タクシー利用助成事業

1億6,878万円

(担当：市民協働課)

通院や食料品及び日用品の買い物など、市民が日常生活を送るために必要な移動手段を確保するため、令和6年度から新たな地域公共交通として実施しているタクシー利用助成を継続して行います。

第二種運転免許取得支援事業

60万円

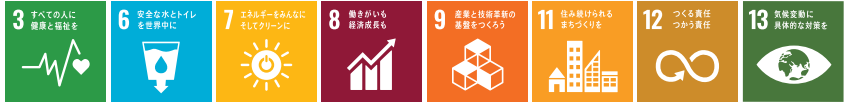
(担当：市民協働課)

市民バスやタクシー利用助成等、市の公共交通網の維持を図るため、市民バス等の運行事業者が費用を負担して従業員に第二種運転免許を取得させた場合、その費用の一部を第二種運転免許取得支援事業補助金として交付します。

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(1) 美しい景観を守り、豊かな自然と共生した多様な暮らしを満喫できる

生活環境を形成します



定住促進宅地分譲地整備事業

8,745万円

(担当：管財課)

市の遊休地の有効活用と定住人口の創出を図るため、旧志波姫公民館敷地等を新たな宅地分譲地として整備します。

財源	市の負担額	8,745万円
	(うち市債〔借入金〕)	1,120万円)

くりこま高原駅周辺整備事業

10万円

(担当：都市計画課)

栗原市の玄関口であるくりこま高原駅周辺の拠点性を高め、新たな価値を生み出すため、官民が連携した整備手法の検討や段階的な整備計画など、具体的なまちづくりの基本計画を策定します。

移住定住支援事業

2,423万円

(担当：定住戦略室)

定住促進事業補助金

若者世代の転入促進及び多世代同居の促進に向けて、住宅の新築・購入・増改築に係る借入金に対し、毎年末借入金残高の5%相当額で、年額上限20万円を3年間助成します。

空き家利活用推進事業

空き家を有効活用した移住定住の促進を目的として、空き家バンクを開設しており、空き家を売却または賃貸したい所有者と空き家の利用希望者とのマッチングを推進します。

また、空き家バンクを利用して、空き家を取得または3年以上賃貸した転入者が当該空き家のリフォーム工事を行う場合、工事費を最大70万円助成します。

移住定住サポート事業

地方移住に関するワンストップ窓口として移住定住支援員を配置し、住まい・仕事・各種支援制度などに関するオンライン相談や首都圏等でのイベント参加のほか、くりはら移住定住コンシェルジュなどとの官民連携によるきめ細かな対応を行い、移住につなげます。

また、市へのさらなる移住を促進するため、移住された方に対し、本市の特産品である「米」を支給し、移住への後押しとするものです。



移住イベントの様子

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(2) 豊かな心と文化を育み、生涯を通じて学べるまちづくり を目指します



公民館整備事業

4億3,211万円
(担当：社会教育課)

栗原市公民館整備基本構想に基づき、市民が「いつでも どこでも だれでも」学べる生涯学習の拠点として整備するため、一迫公民館の建設工事を行います。

また、老朽化した瀬峰公民館と鶯沢公民館の整備に向けて、それぞれの公民館の整備基本計画を策定します。



一迫公民館完成予想図

財源	市の負担額	4億3,211万円
	(うち市債〔借入金〕)	3億8,940万円)

歴史・文化の継承支援伝統芸能活動支援事業

98万円

(担当：文化財保護課)

地域に根ざした伝統芸能を守り、次世代への継承を推進するため、伝統芸能活動の伝承育成及び普及啓発事業を支援します。

〔活動支援補助金の内容〕

国、県、市指定無形民俗文化財保存団体及び協議会の活動に対する補助金の交付

- ・用具の修理、購入
- ・写真・映像等の記録作成
- ・発表会の開催など普及啓発事業の実施
- ・演技指導等の伝承者の育成



第3回くりはら神楽まつりの様子

(3) 安全・安心なまちづくりを推進します



木造住宅耐震改修工事促進助成事業

1,625万円

(担当：建築住宅課)

地震災害による住宅の倒壊や人的被害を防止するため、新耐震基準に適合した住宅へ改修及び建替えをする費用の一部を助成します。

財源	国の負担額	748万円
	県の負担額	354万円
	市の負担額	523万円

木造住宅耐震診断助成事業

285万円

(担当：建築住宅課)

昭和56年5月31日以前に建築された木造住宅に対し、耐震診断士を派遣して耐震診断並びに耐震改修設計を行う費用の一部を助成します。

財源	国の負担額	143万円
	県の負担額	71万円
	市の負担額	71万円

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」



(3) 安全・安心なまちづくりを推進します

災害から市民の生活を守る道路整備

12億8,756万円

(担当：建設課)

道路・橋梁の点検結果に基づき、計画的な修繕や架替えを行うことで、施設の長寿命化を図り市民の安全な生活環境を守ります。

《若柳・志波姫》大林線（仮称）栗原東大橋
《全市》市道・市道橋梁長寿命化対策事業

財源 国の負担額 5億9,529万円
市の負担金 6億9,227万円
(うち市債〔借入金〕6億4,710万円)



(仮称) 栗原東大橋

消費生活相談窓口設置事業 761万円

(担当：産業戦略課)

契約トラブルや悪質商法等、多様化・複雑化する消費生活相談に対応するため、専門知識を有する相談員を配置し、相談に応じます。

〔相談窓口〕

月曜日～金曜日 午前9時～午後4時
(祝日・年末年始除く)
専用電話 0228-22-1501

スマートフォン購入費用の助成

60万円

(担当：危機対策課)

防災行政無線放送の放送内容を確認できるよう、市内在住の70歳以上の高齢者のみで、スマートフォンを未所持の世帯を対象に、スマートフォンの購入費用を助成します。

〔助成の内容〕

本体・充電器購入費及び事務手数料
・上限2万円

「栗原市防災の日」総合防災訓練

454万円

(担当：危機対策課)

平成20年岩手・宮城内陸地震や東日本大震災などの災害の経験と記憶を後世に伝えるため、市民が自然災害についての認識を深めるとともに、自然災害に対する備えを充実かつ強化することにより、災害の未然防止と被害の軽減に資するため防災訓練を実施します。



総合防災訓練の様子

消防車両整備事業

6,835万円

(担当：消防本部警防課)

老朽化したポンプ自動車を更新します。



更新車両(栗原ポンプ1号車)

財源 国の負担額 1,986万円
市の負担額 4,849万円
(うち市債〔借入金〕4,830万円)